

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

September
ISSUE



September 2025
Volume 159

本当の豊かさとは

少し日焼けした子どもたちが学校に戻ってくる姿は、いつも嬉しく、そして頼もしく、これから始まる秋学期に素敵な彩(いろどり)を添えてくれます。

皆さんはどのような夏休みを過ごされたでしょうか。子どもたちからは「まだ夏休みが欲しい!」といった声が聞こえてきそうですが、充実した休日を過ごし、一回りも二回りも大きくなった子どもたちと、また一緒に学びを進められることを楽しみにしております。

さて、7月と8月の本校の宗教テーマは「平和」でした。残念なことに、そして非常に心が痛むことに、世界の戦禍のニュースは後を絶ちません。日本も、80年前に始めた太平洋戦争で、たくさんの大切な命の犠牲を出しました。日本は、国土を拡大させ、資源を確保することを目的の1つに掲げていましたが、それは国を豊かにすることにつながったのでしょうか。皆さんご存じの通り、答えは「No」です。

今年の5月に、ウルグアイの元大統領であるホセ・ムヒカ氏が89歳で亡くなったとのニュースが世界を駆け巡りました。ムヒカ氏は、大統領在職中の収入のほとんどを寄付し、ご自身は質素な暮らしをしていました。このことからムヒカ氏は「世界一貧しい大統領」とも呼ばれていました。

彼の人生を紐解くと大変興味深いのですが、自然を愛し、時間があれば畑を耕して、シンプルな生活をしたことでも有名です。

彼が農業大臣をしていたとき、エネルギー問題の解決策として、太陽光と風力発電を取り入れた

といいます。その結果、ウルグアイでは2005年には0基だった風力発電は、2024年2月の時点で700基にまで増え(*1)、今では、再生可能エネルギーによって、国内に必要な電力をほぼすべて作っている世界でも数少ない国の1つになりました(*2)。

生前の彼の言葉で、私も大変深く考えさせられたものがあります。

「貧しい人とは、何もない人ではなく、欲しが

る人のことを言うんです。(*3)」がそれです。本当の「豊かさ」とは何を指すのでしょうか。今当たり前に私たちが持っているもの一。朝起きて、温かいご飯が食べられること、「おはよう。」と言ってくれる家族や友達がいること、学校で新しいことを学ぶこと、心を癒してくれる美しい自然があること一。私たちは、すでに素晴らしい宝物を持っています。これらが当たり前でなく、大切なものであることに気が付いたら「もっと欲しい。」はなくなり、世界で起こる紛争やもめごとは起こらないのではないかと思います。

本当の「豊かさ」とは何か、是非皆様もお子様と一緒に考えてみませんか。

《参考文献》

*1, *2: NHK 国際ナビニュース

https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/qa/2024/02/06/37265.html

*3: ホセ・ムヒカの名言格言 62 選

<https://meigenkakugen.net/%E3%83%9B%E3%82%B%E3%83%BB%E3%83%A0%E3%83%92%E3%82%AB/>

副校長 ロハス 亜紀



キリスト教教育

9月：調和 September：Harmony



聖書：「主は私を緑の野に伏させ 憩いの汀^{みぎわ}に伴われる。
主は私の魂を生き返らせ 御名にふさわしく、正しい道へと導かれる。」

詩編 23 章 2, 3 節（聖書協会共同訳）

夏休み中、とある音楽会に招かれて、他県の市民ホールへ赴きました。1時間ほど電車で揺られ、小さな無人駅に着いた頃は既に夕刻でその周辺へのバスはなく、タクシーも20分以上待たないと到着しないということだったので、思い切って歩いて行きました。その日は大雨だったので暑さは比較的ましでしたが、ホールまでの最短距離がわからぬままに、しばらく田んぼの畦道をとぼとぼと歩いていました。その時、過去に経験したある風景が脳裏に浮かんできました。

筆者が大学4回生の時のことです。宗教科の教員免許に必要な教育実習のために、神学部の学生たちは様々な学校へ配属されました。本人がキリスト教主義学校出身であれば自分の母校へ行くこととなりますが、そうでない場合は同志社諸学校の何れかに振り分けられます。そういうわけで、公立校出身の筆者は同志社国際高校で実習を受けることになったのでした。当時、京田辺キャンパスには大学の工学部（現在の理工学部）と国際高校しかなく、国際高校もまだ創立5年という若さで、建物の周囲には何もなく、ただ一面の田んぼが広がっていました。筆者は大阪から京都に通学していたのですが、その頃はまだ「同志社前駅」などという洒落た名前の駅は存在せず、とある無人駅の回収ボックスに切符を入れて、田んぼの中の畦道をひたすらとぼとぼと歩いていきました。時間にすればたったの15分ほどでしたが、早朝で周りにはひと気もなく、心細かったことを覚えています。それだけに畦道の先に突如、見慣れた赤煉瓦の建物が見えた時の喜びはひとしおでした。

この度の市民ホールも初めて行く場所で、大雨で視界が良くないなか畦道を歩くのは、家族と一緒にでも心細いものでした。しかしながら畦道を歩いた先に、やはり突如として現れた立派な建物があり、中へ入ると、数は思ったより多くはないものの、音楽を愛する数十名の人たちが静かな興奮に包まれて、舞台から流れる澄んだ音色に耳を傾けていました。そこは建物の周囲とは全く別の世界だったのです。

思えば人生の歩みは田んぼの畦道に行くのに似ているかも知れません。夏の晴れた日は暑く、雨が降れば足がぬかるんで、進む先が見えにくくなります。雷が鳴れば恐ろしい思いをしますし、もちろん冬になれば寒さに凍えることもあるでしょう。それでも春や秋に気候が良ければ、空を見上げて「人生この上なく楽しい。」と感ずるのです。

聖書には、まだ見えない素晴らしい場所が神さまによって用意されていることを信じて歩み続けることが大切である、と教えられています。「緑の野」は羊の糧そのものであり、「憩いの汀」は渴きを潤す川のほとりです。その譬えを筆者の体験に当てはめるなら、田んぼは確かに我々の大事な「糧」の供給源ですが、その畦道を歩くのは時には苦しみを伴います。この単調な道が果たしてどこへ続くのか知る由もありません。でも、その先には確かに美しい赤煉瓦が、胸打つ透明なメロディーが待っていました。上掲の詩編の作者の言葉を、もう少し読み進めてみましょう。

「命あるかぎり 恵みと慈しみが私を追う。私は主の家に住もう 日の続くかぎり。」詩編 23 章 6 節



Christian Education Committee チャプレン

<お知らせ>

9月9日（火）おにぎり献金

- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

1年生のUnit2では、「健康的な住処で生き物は成長する」をCentral Ideaに探究しました。Week1のTuning Inでは子ども達に生き物に興味・関心を持ってもらうために、画用紙や折り紙を使った生き物作りをしました。子どもたちは、発想豊かに、様々な色や形を使って生き物を作りました。

Week2のFinding Outでは生き物について知るために京都市動物園へ行きました。行く前にRubricの発表を行い、京都市動物園への校外学習でどんな知識を得て帰ってきて欲しいかの確認をしました。また、子ども達が興味・関心を持った動物をできる限り観察し、その動物について学ぶことができるように保護者の方のボランティアを募り、園内を一緒に見学していただくことにしました。当日は気温がかなり高く、園内を何周もした



子ども達は疲れている様子でしたが、最後まで動物について、少しでも知ろうとする姿勢は素晴らしかったです。

京都市動物園から帰ってきた子ども達は生き物についてさらに知るために本やインターネットを使った調べ学習を始めました。生き物の基本情報(Form)である名前、大きさ、重さ、食性、鳴き声、住処、特徴などはもちろんのこと、その生き物が困っていること(Connection)やその生き物のためにできること(Responsibility)について調べ、ワークシートにまとめました。



Sorting Outとして、Week3の最初に子ども達が調べて分かったことを共有する時間を持ちました。そこで、基本情報についてはある程度調べることができていますが、生き物が困っていることや生き物のためにできること

について調べるのに苦戦していることが分かりました。本やインターネットに情報はあるものの、1年生に読み解くのはやや難しかったようです。そこで頼ったのがBuddyの6年生です。UOIJの時間にBuddyの1年生と6年生で生き物について一緒に調べ、一緒に考える時間を持ちました。今年度初めてとなるBuddy活動で、最初は緊張した様子でよそよそしかったですが、最後の方には楽しそうに笑いながら調べたり、考えたりする様子が見受けられました。1年生にとってはもちろんのこと、6年生にとっても有意義な時間になったように感じました。

6年生の力を借りながら、生き物についての探究が一通り終わったところで、Week4のGoing FurtherではSummative Assessmentの発表に向けた準備が始まりました。Unit1では書くことに焦点をあてていたため、発表はしなかったのですが、今回はBuddyに向けて発表することにしました。伝えたいことをどんどん発表原稿に書き込んでいく子もいれば、「う〜ん、何を発表しようかな。」と悩みながら書く子も見受けられました。また、Week5では発表する内容に合わせて模型やスライド作りも行いました。子ども達なりにどのようにしたら聞き手にとって見やすく、分かりやすくすることができるかを一生懸命考える姿が微笑ましかったです。

Week6ではDIAで初めてとなる発表を行いました。何度も練習したものの、当日はやはり少し緊張した様子でした。6年生のBuddyのサポートを受けながら、全員がしっかりと発表することができました。発表後にはBuddyからコメントを受け取り、子ども達ははたとても満足そうでした。





The Grade 6 Exhibition: A Culmination of the PYP Journey

Hello everyone,

As we look ahead to the new school year, I want to highlight a significant upcoming event that represents a powerful culmination of the Primary Years Programme: The Grade 6 Exhibition. This isn't just an event; it's a multi-faceted learning experience that truly embodies the PYP framework.

For our Grade 6 students, the Exhibition is their capstone project – an opportunity to independently pursue an inquiry into a real-world issue or problem. This year, we've structured the process using the Grade 6 Exhibition as a template for deep, sustained learning. It involves a journey of several key steps, each designed to foster critical skills:

- **Choosing Their Path:** The process begins with students taking significant time to select a topic of genuine personal interest. This isn't assigned; it's chosen, fostering ownership and intrinsic motivation. It's about finding a real-world issue they care about and want to explore.
- **Strategic Research:** Once a topic is chosen, students delve into how they will research. This goes beyond simple searching; it involves considering reliable sources, varied methods, and organizing information effectively. They learn to be efficient and critical researchers.
- **Collaborative Learning:** Much of the Exhibition work is done in groups. This requires students to develop essential collaboration and communication skills: listening to diverse perspectives, sharing responsibilities, managing disagreements, and working towards a shared goal.
- **Engaging the Audience:** Students think deeply about provocations – how to spark interest and engage their audience. They consider their communication skills, not just in presenting findings, but in making their complex topics accessible and compelling. The aim is for them to learn how to make their topics truly engaging for others.

The Exhibition journey is intentionally rigorous. It demands significant time management, resilience, and the application of all the IB Learner Profile attributes we discussed previously – from being Inquirers and Thinkers to Communicators and Risk-takers. It's a structured process designed to transition students from guided inquiry to independent learning.

How the Whole School Can Support

Whether you're a parent of a Grade 6 student or simply part of our wider school community, understanding this process is valuable.

For Grade 6 parents, your support in encouraging *independent* work, discussing their chosen topics, and helping them manage their time will be invaluable. Remember, the focus is on *their* learning journey and problem-solving, even when challenges arise.

For the rest of the school community, witnessing the Grade 6 Exhibition is an inspiring glimpse into the potential of inquiry-based learning. It showcases how our younger students' foundational PYP experiences build towards a significant independent project. It's a clear example of the 'why' behind the learning approaches we foster from Early Years upwards.

We look forward to sharing more details about the Exhibition schedule and opportunities to engage as the new term begins. The Exhibition not only demonstrates our students' learning but also reinforces the values and skills we cultivate across the entire PYP. Sincerely,

皆さまへ

新しい学年のスタートにあたり、Primary Years Programme (PYP) の重要な節目となるイベント、Grade 6 エキシビションについてご紹介したいと思います。

このイベントは単なる発表会ではありません。学びの旅の集大成として、PYP の理念を体現する多面的な学習経験です。Grade 6 の生徒にとって、エキシビションは「キャップストーン・プロジェクト (集大成の学び)」となります。現実社会の課題に対して、自主的に探究を深める絶好の機会なのです。

本年度は、PYP のフレームワークに基づいた綿密なプロセス設計のもと、深く持続的な学びを支える構造を取り入れています。この探究の旅は、以下のような重要なステップで構成されています。

- **自分のテーマを選ぶ**
児童は、心から興味を持てるトピックを時間をかけて選びます。テーマは与えられるものではなく、自ら選ぶものです。ここには主体性と内発的動機づけが育まれます。彼らが本当に興味を持つ、現実の課題と向き合うことが出発点です。
- **戦略的なりサーチ**
テーマが決まったら、どのようにリサーチを進めるか計画します。ただ情報を集めるだけでなく、信頼できる情報源の選定、多様な調査手法、情報の整理方法など、批判的かつ効率的なりサーチスキルを身につけていきます。
- **協働的な学び**
エキシビションの多くの活動はグループで行われます。その中で、児童は他者の視点に耳を傾け、責任を分担し、意見の違いを乗り越えながら、共通の目標に向かって協力する力を育てていきます。
- **観客との関わりを意識した発信**
どのように関心を引き、聴衆を巻き込むかを考えることも大切な要素です。単なる成果発表にとどまらず、複雑なテーマをわかりやすく、魅力的に伝えるコミュニケーション力を磨きます。

エキシビションは意図的に高いレベルの挑戦が求められる学びです。時間管理、粘り強さ、そして IB の学習者像 (Inquirer 探究者、Thinker 思考する人、Communicator コミュニケーションをとる人、Risk-taker 挑戦する人など) すべての資質を実践する機会となります。このプロセスは、児童が教師のサポートを受ける探究から、自律的な学びへと移行するためのステップなのです。

学校全体での支援について

Grade 6 の保護者の皆さまには、ぜひお子さまの自主的な学びを支援していただければと思います。テーマについて話し合ったり、時間の使い方と一緒に考えたりすることが、何よりも力になります。大切なのは、困難に直面してもそれを学びのチャンスと捉える姿勢です。

また、それ以外の学年や保護者の皆さまにとっても、Grade 6 エキシビションを見学いただくことは、探究的な学びがどのように実を結ぶかを目の当たりにできる貴重な機会です。PYP の初期段階での体験が、どのように自律した学びへとつながるのかをご理解いただけるはずです。

新学期が始まりましたら、エキシビションのスケジュールや、皆さまにご参加いただける機会について、改めて詳細をお知らせいたします。このエキシビションは、児童の成長を示す場であると同時に、PYP 全体で育んできた価値観とスキルを明確に表現する場でもあります。今後のご協力とご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

敬具

PYP コーディネーター
クリス・エルズドン



からのおしらせ

敬老の日はなぜ9月15日なの？

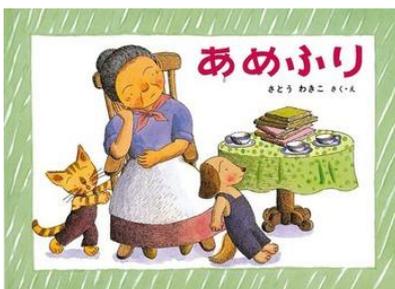
1947年、兵庫県多可郡野間谷村（現在の多可町）の村長が、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と、9月15日に「敬老会」を開催したのが後の「敬老の日」につながったとされています。今年もおじいちゃん、おばあちゃんに感謝の気持ちを届けましょう。

『おじいちゃんがおばけになったわけ』 作/キム・フォップス 絵/エヴァ・エリクソン 訳/菱木晃子 あすなる書房



大好きな「じいじ」が突然死んじゃった！死んだらどうなるの？ママに聞いたら「天国へ行くのよ。」パパに聞いたら「土になるんだ。」なんかぴんと来ないな・・・と、思っていたら夜になって死んじゃったはずのじいじが僕の部屋にいる。なんで？おばけ？本によると「この世に忘れ物がある人はおばけになる」と書いてあるよ。じいじ、何か忘れていた事があるんじゃないの？二人で一生懸命考えます。忘れていたのは・・・。

『あめふり』 さとうわきこ・文絵 出版社：福音館書店



「ばばあちゃん」のシリーズの第3作。毎日毎日雨ばかり降り続くので、怒ったばばあちゃんは雲の上の雷に向かって大声で言った。「ようし、こっちにも考えがあるよ。」

『おばあさんのしんぶん』 松本春野・文絵 原作・岩國哲人 出版社・講談社



小学5年生だったつおが新聞配達を始めたのは、どうしても新聞が読めたかったから。「読みにおいで。」と言ってくれる、おじいさんとおばあさんがいたから。それからつおは毎日、くる日もくる日も新聞を配達しました。配達し終わると、みはらのおじいさんの家で新聞を読ませてもらうのです。やがておじいさんが亡くなり、それでもおばあさんが「読みにおいで。」と言ってくれて・・・。

9月の主な行事・予定

9月10日～9月12日 G3 宿泊学習
9月16日～9月19日 G6 宿泊学習

1	月	Unit3 Week1, 始業礼拝 / Opening worship service, PYP Planning (AM lessons)
2	火	
3	水	入試準備(午前授業) / Preparation for entrance exam (AM lessons)
4	木	入試/Entrance exam(児童自宅学習日)
5	金	入試/Entrance exam(児童自宅学習日)
6	土	
7	日	
8	月	Unit3(week2)
9	火	
10	水	クラブ活動 Students' Club Activity G3 宿泊学習/ G3 Overnight trip
11	木	G3 宿泊学習/ G3 Overnight trip
12	金	G3 宿泊学習/ G3 Overnight trip
13	土	
14	日	
15	月	敬老の日/Respect for Aged Day
16	火	Unit3(week3) G6 修学旅行/ G6 Overnight trip
17	水	G6 修学旅行/ G6 Overnight trip
18	木	G6 修学旅行/ G6 Overnight trip
19	金	G6 修学旅行/ G6 Overnight trip
20	土	
21	日	
22	月	Unit3(week4)
23	火	秋分の日/Autumnal Equinox Day
24	水	PYP Planning (AM lessons)
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	Unit3(week5)
30	火	

10月の主な行事・予定

10/22 (水)	PYP Planning (AM lessons)
10/25 (土)	スポーツデイ/Sports Day
10/27 (月)	スポーツデイ代休/Substitute holiday
10/28 (火)	避難訓練/Evacuation drill
10/29 (水)	スポーツデイ予備日/Sports Day back-up day
10/30 (木)	ハロウィーン/Halloween
10/31 (金)	収穫感謝祭 /Thanksgiving